

## ◎令和4年度生駒北小学校

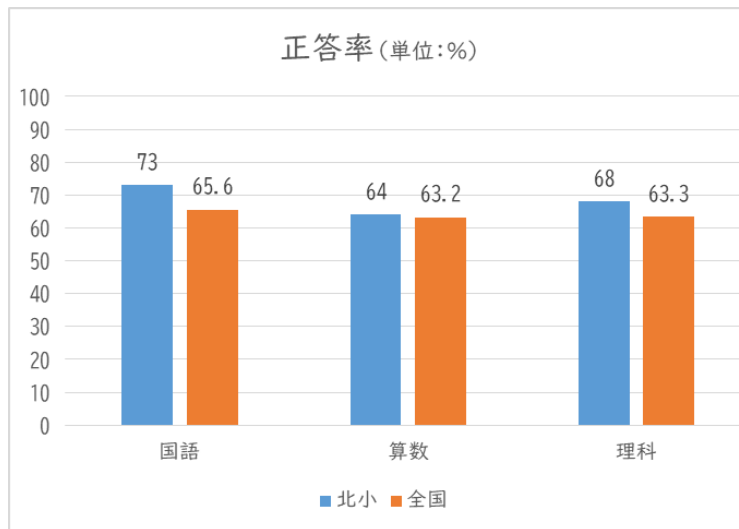
### 第6学年全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月19日(火)に全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

本年度は、国語・算数に加え、3年ごとに実施されるの理科の調査がありました。令和2年度から新学習指導要領実施に伴い、各教科の領域が下記の内容で出題されています。

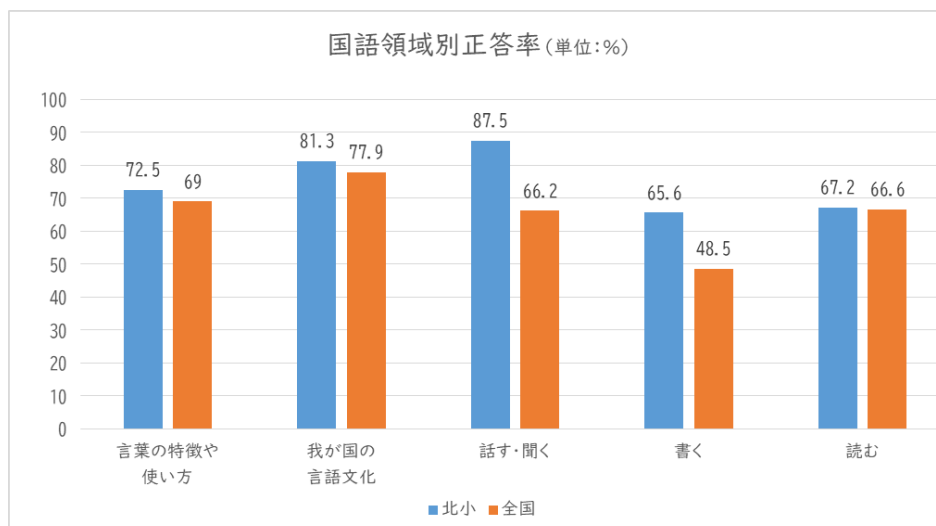
- ・国語：知識及び技能（「言葉の特徴」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する事項）  
話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと
- ・算数：数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用
- ・理科：「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域

#### <各教科正答率>



国語・算数・理科の問題全体の正答率を全国平均と比較したのが、上記のグラフです。算数は約1ポイント、国語は約7ポイント、理科は約4ポイントと、各教科とも全国平均を上回りました。本校の6年生児童が、これまで積み重ねてきた学習の成果がここに表れていると思われます。では、さらに学力を向上させていくためには、どんなことを課題として捉えていけばよいのかという点から、各教科の領域別の正答率を見てみました。

#### <国語>

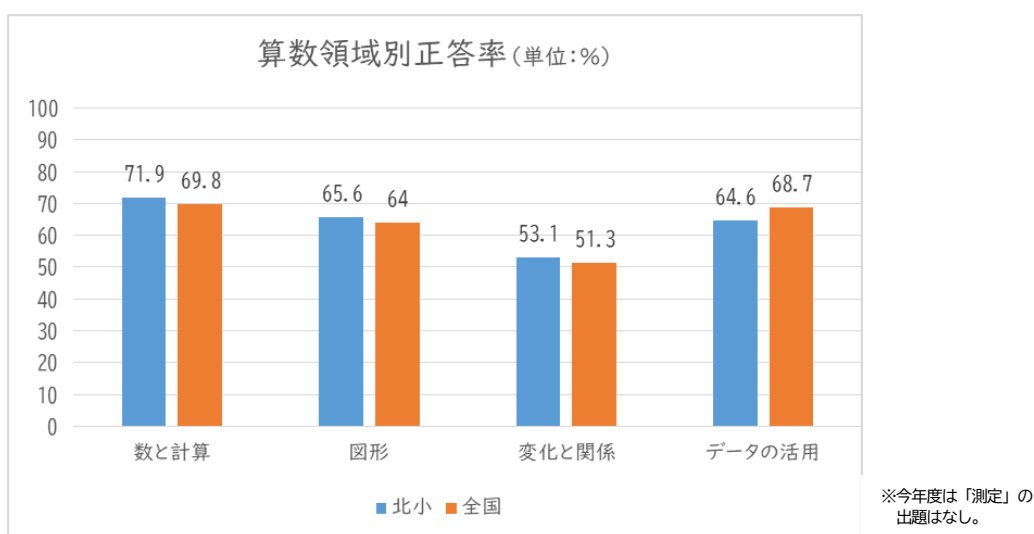


※今年度は「情報の扱い方に関する事項」の出題はなし。

全ての領域において、正答率は全国を上回りました。「話すこと・聞くこと」の「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題」と「書くこと」の「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところ見付ける問題」では、いずれも記述式の問題でしたが、特に全国を大きく上回っていました。記述式の問題は、全国的に見ても平均正答率が低く、無回答率が高い中、本校の6年児童は、相手の意見を考えた上で自分の考えを表現することができており、学力として定着していると思われる。今後も、話し合いの場面において、話し合いの目的や方向性を確認し、互いの意見を整理して、自分の考えをまとめるような学習を大切にしていきたいと考えます。

一方で、「読むこと」では、全国平均とほぼ変わりませんでした。が、「人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題」「表現の効果を考える問題」で全国を下回りました。「登場人物の行動や気持ちや相互関係」を叙述や描写を基に内容面から捉えることはできていましたが、「どのように描かれているか」という表現面に着目して読み、想像を膨らますことが難しかったのではないかと考えられます。着目した叙述を取り上げ、考えをまとめたり、考えたことを交流したりするような学習が必要だと感じています。

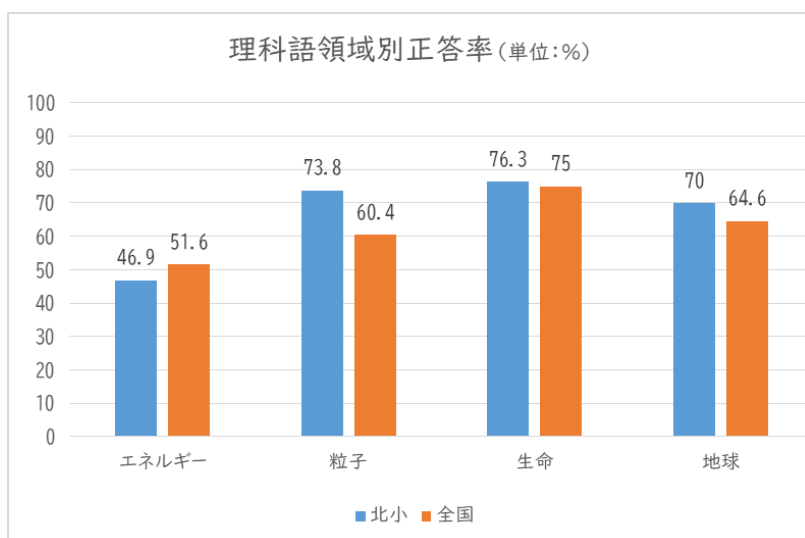
### <算数>



算数では、全体としては全国の上回りました。しかし、その差はわずかで、「データの活用」では、3問全てで全国の上回りました。特に「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる問題」に課題が見られました。これは、表の意味を理解し、目的に合った数の処理の仕方を考えるのが難しかったと思われる。また、「図形」の「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる問題」においても、低い正答率でした。プログラミングの基本的な操作やその特性を把握して記述することができなかつたと思われる。

基礎基本の学習はもちろんのこと、目的に応じて表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉えて考察・分類整理をする学習や、様々な図形を「プログラム」して作図する学習をさらに増やしていくことが必要といえます。

<理科>



理科も全体としては全国の正答率を上回りましたが、その差は小さく、「エネルギー」の領域では、4問中3問で全国の正答率を下回りました。今回の出題は、第3学年で学習した「光の性質」に関する内容で、「日光は直進することを理解している問題」「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している問題」では、全国を約10ポイント下回りました。また、「生命」の領域でも、第3学年の「身の回りの生物」から出題された「昆虫の体のつくりを理解している問題」「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる問題」で正答率の低さが見られました。このことから、科学的な視点に基づいた確かな知識理解と、結果を事実として分析し、それを結論の根拠として思考する力に弱さがあるのではないかと考えています。

これらの課題を克服するためにも、「観察・実験などで得られた結果について、分析・解釈し、問題を見いだしたり、より妥当な考えをつくりだしたりすることができるようにする」「習得した知識を実際の事物・現象と関連付けて説明できるようにする」ことに重点をおき、学習活動をより充実させる授業を目指していきたいと思えます。

<児童質問紙調査>

質問紙		北小	全国	比較
学校生活	人が困っている時は進んで助ける	100	88.9	◎
	いじめはいけないと思う	100	96.8	
	困りごとや不安なことを先生や学校にいる大人に相談できる	93.8	68.1	◎
学校での学習	国語の勉強が好き	50	59.2	▼
	国語の勉強は大切だ	100	93.3	◎
	自分の考えを伝えるため工夫して発表する	100	65.4	◎
	算数の勉強が好き	75	62.5	◎
	算数の勉強は大切だ	100	94.2	◎
	算数の問題をあきらめずに考える	93.8	80.4	◎
	理科の勉強が好き	87.5	79.7	◎
	理科の勉強は大切だ	87.5	86.5	
	理科の学習を生活の中に活用できるか考える	93.8	67.9	◎
	自ら考え、課題に取り組む	93.8	77.3	◎
自尊心の育成	自分には良いところがある	87.6	79.3	◎
	夢や目標を持っている	87.5	79.8	◎
	難しいことでも失敗を恐れず挑戦している	75.1	72.5	
	人の役に立ちたい	93.8	95.1	
家庭での生活・学習	朝食を毎日食べる	87.6	94.4	▼
	毎日同じくらいの時刻に寝る	87.5	81.5	◎
	自分で計画を立てて学習する	75.1	71.2	
	1時間以上、家庭学習をする	37.5	59.4	▼
	30分以上、読書をする	73.9	36.4	◎
	2時間以上、テレビゲームをする	25.1	50.2	◎
地域生活	地域行事に参加する	81.3	52.7	◎

懸念される項目に▼ 良い状態に◎

この調査結果からは、児童の良さをたくさんうかがい知ることができました。

友達を大切に思い仲良く助け合うことで、居心地の良い社会を自分たちで作り出すことができているということ。また、学習を大切だと捉え、決して好きとは言えない学習にも工夫して発表したり、あきらめずに考えたりしながら、一生懸命学習に取り組もうと努力することができるということ。これらは当たり前のようですが、実際は、そうなかなかできるものではないと思っています。

そして、より着目したいのは、「自分には良いところがある、夢や目標を持っている」と答えた児童が多かったことです。コロナ禍において、世の中に対して不安を感じている若者や子どもたちが増えたともいわれる今日ですが、この結果からは、しっかりと前を見て力強く歩みを重ねる力が本校児童に育まれているといえると考えます。

この先も、個々それぞれ、自分の存在の大切さを見失うことなく歩み続けていってほしいと願い、それを支え続けられる学校づくりを目指していきたいと思えます。